

ヒバ林の復元に向けた取組

かつてヒバ林が成立していた地域において、スギ・カラマツ等の人工林からヒバ林への誘導に向けた取組を新たに進めます。

背景

- 大径材主体のヒバ林が減少し、ヒバ材の供給量も減少しています。
- 主伐期を迎えたスギ・カラマツ等の人工林には、ヒバ稚幼樹の生育が見られる林分があり、ヒバ稚幼樹を活用した更新が可能と見込めます。

【平成27年度の取組予定】

● ヒバ林復元のイメージ

〔 現在 〕



中小径木主体の天然林

天然林

保護すべきところは保護林として、
人手を加えずに保護

施業対象の林分については、中
小径木の間伐を繰り返し、大径木
の伐採が可能な林分へと誘導

人工林



スギ・カラマツ等の人工林

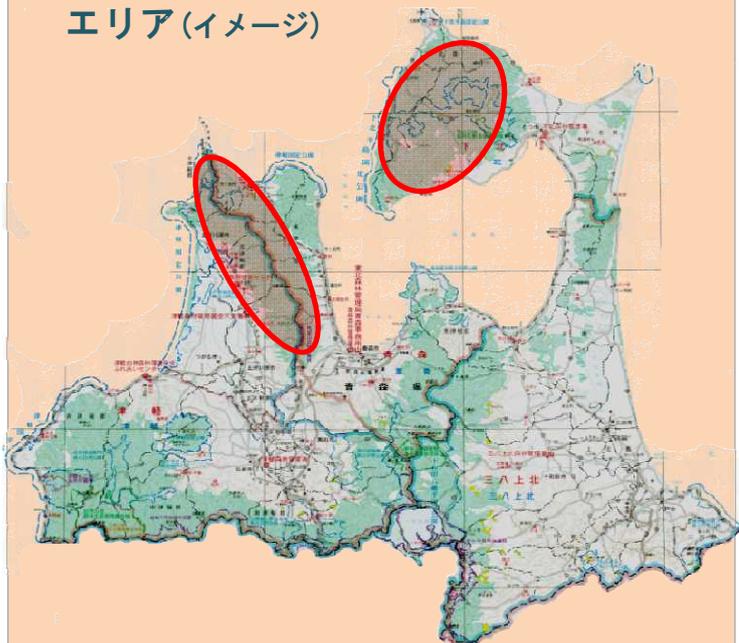
林内のヒバ稚幼樹の生育を促
し、植栽と併せて徐々にヒバ林
へ誘導

〔 将来 〕



- ・保護林等によるヒバ林生態系の保存。
- ・大径木主体のヒバ択伐林を増やし、ヒバ材を持続的に供給。

● ヒバ林復元に向けた取組の実施対象エリア(イメージ)



※当面は、津軽、下北半島の人工林等についてヒバ林への誘導に向けて取り組む。

● 取組・検討事項

- ・人工林をヒバ林へと誘導するための技術的・制度的課題の整理
- ・コンテナ苗等の低コストなヒバ苗木の確保策の検討
- ・森林計画へのヒバ林誘導の取組の反映
東青森林計画区(H28~H32)：新たに策定
下北森林計画区(H26~H30)：現行計画を変更



林床に見られるヒバ稚幼樹